

聴覚障害者を対象にした防災訓練が15日、明石市立総合福祉センター(貴崎1)であり、明石ろうあ協会の会員や手話通訳者、市職員ら約40人が参加した。災害時の行動を確認し、どのように意思疎通を図るかを参加者に考えてもらう内容で、市が初めて主催した。訓練は「自治会の集会中に大地震が発生」という想定で実施。参加者はノートに状況を書いて示したり、手話通訳者や要約筆記者を通して聴覚障害者に状況を伝え、いったん屋外に出てから避難所に見立てた体育館に移動した。

消防本部の職員は「非常時には周囲の物をたたくなどして音を出し、助けを求めてほしい」と助言し、建物の出口の探し方などを解説。聴覚障害

聴覚障害者対象 市が初の防災訓練

意思疎通など課題を確認

者からは「旗などがあれば、誰に付いて避難すればいいか分かりやすい」「筆談では難しい言葉を使わず、絵も交えてもらえば」などの意見が出されたほか、災害時の対応をめぐる質問も相次いだ。

(新開真理)



要約筆記などを通じ、聴覚障害者に状況を伝えた
防災訓練＝貴崎1